

# Shooting 法による Falkner-Skan 方程式の解法 with Scilab

伊藤榮信

2017 年 1 月 11 日

## 1 Shooting 法と Scilab プログラム

より一般的な境界層方程式である Falkner-Skan 方程式

$$f''' + \beta_0 f f'' + \beta(1 - f'^2) = 0, \quad (1)$$

を数値的に解くために Shooting 法を利用する（以下,  $\beta_0 = 1$  とする）.  
ここで  $f'(\eta) = df(\eta)/d\eta$  を表し, 2 階, 3 階も同様である. 境界条件は

$$f(0) = 0, \quad f'(0) = 0, \quad \eta \rightarrow \infty \text{ で } f' \rightarrow 1 \quad (2)$$

である. まず Falkner-Skan 方程式を 1 階連立常微分方程式

$$\left. \begin{aligned} \frac{df}{d\eta} &= u, \\ \frac{du}{d\eta} &= v, \\ \frac{dv}{d\eta} &= -fv - \beta(1 - u^2), \end{aligned} \right\} \quad (3)$$

の形にしておく. よって境界条件は

$$f(0) = 0, \quad u(0) = 0, \quad u(\infty) = 1 \quad (4)$$

となる.

境界条件の一つは  $\eta \rightarrow \infty$  でのものであるが, 未知の  $s$  を導入し, すべて  $\eta = 0$  での条件として解法を試みる: すなわち

$$f(0) = 0, \quad u(0) = 0, \quad v(0) = s \quad (5)$$

として解きはじめ (例えば常微分方程式の解法には Runge-Kutta を使う)  $\eta \rightarrow \infty$  で  $u \rightarrow 1$  となるような,  $s$  を探索するという問題に帰着する. つ

まり,  $s$  を修正しながら  $\eta \rightarrow \infty$  で  $u \rightarrow 1$  なる  $s$  を探す. 最初の  $s$  を  $s_0$  と  
して第  $n$  回目を  $s_n$  と書く. そこで問題となるのが  $s_n$  の更新方法

$$s_{n+1} = s_n + \Delta s \quad (6)$$

であり, それではどのように  $\Delta s$  を決めるかとなる. もし  $s_{n+1}$  で  $u(s_{n+1}) = 1$  が達成されたとすると, 1次精度で

$$u(s_{n+1}) = u(s_n) + \frac{\partial u}{\partial s} \Delta s = 1 \quad (7)$$

という式が得られる.  $\Delta s$  はこの式から求められ

$$\Delta s = (1 - u(s_n)) \frac{\partial s}{\partial u}. \quad (8)$$

となる. ここで

$$\frac{\partial s}{\partial u} = \frac{s_n - s_{n-1}}{u(s_n) - u(s_{n-1})} \quad (9)$$

とする. よって,

$$s_{n+1} = s_n + \Delta s = s_n + (1 - u(s_n)) \frac{s_n - s_{n-1}}{u(s_n) - u(s_{n-1})} \quad (10)$$

で更新し,  $s_n$  が収束するまで繰り返すことで解を見つけるのが shooting  
法である.

以下, Scilab によるプログラムを記しておく. Scilab での常微分方程式  
解法機能は “ode” である.

```

////////////////////////////////Falkner-Skan solver //////////////////////////////////
// ODE : f'''+ff''+beta*(1-f'2)=0 → beta=bb
// written by Itoh Shigenobu
clear;
format(20) //17 decimal places
bb=1;
// eta=x, f=y(1), u=y(2), v=y(3)
function ydot=FLK_SK(x,y)
    ydot(1)=y(2);
    ydot(2)=y(3);
    ydot(3)=-y(1)*y(3)-bb*(1-y(2)*y(2));
endfunction

x_start=0;
x_step=0.2;
x_end=4.0;

```

```

n_end=(x_end-x_start)/x_step+1;
epsilon=0.00001;// control parameter for convergence

// n=1 making initial state
shooting_value(1)=1; //initial shooting parameter s_0
x=x_start:x_step:x_end; // interval[0, 4]
yy=ode([0;0;shooting_value(1)],x_start,x,FLK_SK);
f_prime_at_end(1)=yy(2,n_end)
shooting_value(2)=1.1; // shooting parameter for n=2

n=2
x=x_start:x_step:x_end; // interval[0, 3]
while abs(shooting_value(n)-shooting_value(n-1)) > epsilon
    yy=ode([0;0;shooting_value(n)],x_start,x,FLK_SK);
    f_prime_at_end(n)=yy(2,n_end);
    shooting_value(n+1)=shooting_value(n)+(1-f_prime_at_end(n))*(shooting_value(n)-
shooting_value(n-1))/(f_prime_at_end(n)-f_prime_at_end(n-1));
n=n+1;
end

////////// Graph
for i=1:1:n_end,
    X(i)=x_start+(i-1)*x_step
end

for i=1:1:n_end,
    Y2(i)=yy(2,i) // yy(2,i)=u(i)
end

for i=1:1:n_end,
    Y3(i)=yy(3,i) // yy(3,i)=v(i)
end

clf();
plot(Y2,X,"o")
//////////Falkner-Skan solver end//////////

```

## 2 いくつかの数値結果

Falkner-Skan 方程式内の  $\beta$  のいくつかの値に対する結果を記しておく。文献では各  $\beta$  に対する  $v(0) = s$  の値により精度を確認している。これまでの数値実験によれば、この値は無限遠としてとる有限値  $\eta_\infty$  (プログラム内では x\_end) の与え方により若干増減する。本プログラムでは  $\beta > 1.8$  では解が得られなかった。また、 $\eta$  の刻み幅 (x\_step) は 0.2 とかなり粗いように思われるが、0.01 でも 0.0001 でも  $v(0)$  の値はほとんど変化しない。以上の結果と他の文献 Asaithambi[1] との比較を表 1 に示した。また  $\beta = 1.0, 0, -0.1988$  の 3 ケースの速度プロファイル ( $f' = u$  の結果, 縦軸が  $\eta$  で横軸が  $f' = u$  の値) を載せた。 $\beta = -0.1988$  の場合は速度プロファイルに変曲点を持つ流れである。

表 1: 数値実験結果と他の文献との比較

$\beta$	今回 $\eta_\infty$	今回 $f'''(0) = v(0)$	Asaithambi(2005)
2.0	-	-	1.687218
1.8	2.6	1.606617	-
1.0	4.0	1.232595	1.232589
0.5	4.6	0.927687	0.927680
0.0	6.0	0.469599	0.469600
-0.1	8.0	0.319270	0.319270
-0.15	8.0	0.216361	0.216361
-0.18	8.0	0.128636	0.128637
-0.1988	8.0	0.005232	0.005225

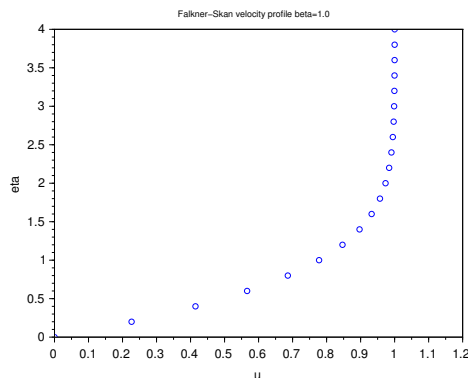


図 1:  $\beta = 1.0$  の場合の  $f' = u$  (速度プロファイル)

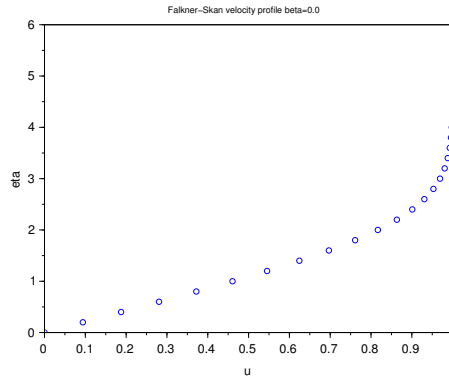


図 2:  $\beta = 0.0$  の場合の  $f' = u$ (速度プロフィール)

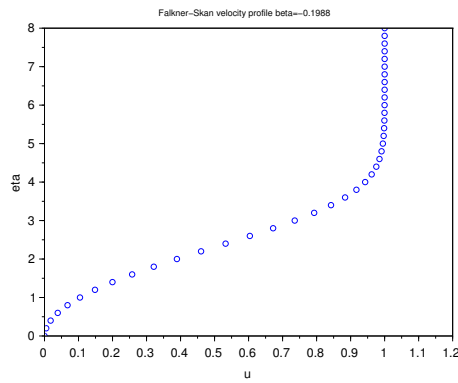


図 3:  $\beta = -0.1988$  の場合の  $f' = u$ (速度プロフィール)

## 参考文献

- [1] Asaithambi, A.: Solution of the Falkner-Skan equation by recursive evaluation of Taylor coefficients, Journal of Computational and Applied Mathematics 176(2005): pp203-214.